

第四節 調査研究、事業など

一 邦楽調査掛

邦楽調査掛は明治四十年（一九〇七）十月、文部省によって設けられた。設置は数年来の懸案であったが、平曲家館山漸之進が先に平曲保存を文部大臣にたびたび嘆願していたことなどが実現の契機となった。「専ら邦楽ノ調査及保存ヲ爲ス」（規定 第一〇）ことを目的とし、当初の事業計画を楽曲の五線譜記譜と蓄音機吹き込みによる保存、そして公開演奏会とした。経費の都合で吹き込みは同時にはとりかかれなかったが、翌四十一年二月には実施し、演奏会は四十年十二月に開催し、大正二年には一般公開している（第六回邦楽演奏会）。また四十一年三月から文部省属官であった高野辰之が調査嘱託となり、邦楽調査掛の新たな事業計画が実現へと向かうことになる。そして同年十月に高野に勧められて福田勘藏（黒木勘藏）が雇となり（四十四年に嘱託）、高野の下で邦楽年表の編纂に着手し、四年後に邦楽調査掛の最初の刊行本『近世邦楽年表 常磐津・富本・清元之部』を完成させた。邦楽年表をはじめとしてその他の出版事業計画も早々に実施されている。図書の蒐集・保存（謄写）にも力を入れ、それに関連して図書展覧会も開催した。事業成果は、昭和二年に三冊目の『近世邦楽年表』（義太夫之部）が刊行され、五線譜採譜も弘田龍太郎の努力で同三年までにかなり整理・浄書された。しかしその後は進展せず、楽譜は他の成果とともに未公開のまま残されることとなる。昭和十八年四月以降の邦楽調査掛の存廃は未詳である。

本節ではそれら諸事業の経緯および内容を示す資料の一部を掲載するとともに、関係書類については『邦楽調査掛関係書類』（文書綴二冊。明治四十年十一月より大正十三年三月）としてまとめられている。なお「邦楽調査掛規程」は第三章第一節に掲載される。

(一) 邦楽調査掛概況

事業計画

「規程」は四十年十月二十五日に定められるが、すでに十月一日（火）から最初の事業である五線譜採譜の作業が開始された。さらに開始に先立ち、嘱託員が九月十七日に召集されている。

九月十七日 火曜日 雨

本日午前九時館山漸之進菅野藤次郎吉野萬太郎岡村庄吉永井素岳伊藤棟太郎出校シタルニヨリ校長室ニ召集嘱託辭令書ヲ交附セラレ而シテ更ニ校長ハ一同ニ對シ邦楽調査掛設置ノ理由竝ニ調査ノ方針ニ就キ訓示セラレタリ 但當日西山龜助ハ不參

富尾木主事ハ出勤定日ノ打合ヲナシ差向キ左ノ通決定セリ

十月中日割

吉野萬太郎	午前一日	八日	十五日	二十二日	
館山漸之進	午前一日	七日	十四日	二十一日	二十八日
伊藤棟太郎	午前二日	十日	十六日	二十三日	
菅野藤次郎	午後三日	九日	午前十九日	二十九日	
岡村庄吉	午後十一日	十八日	二十五日	二十八日	

〔手書き〕
〔日誌〕